

広報物ヒアリング（現場）の実施結果について

作成している「(仮称)町田市子どもにやさしいまち条例」の広報物について、広報物をより良いものとするために、子どもと接する機会の多い現場の方たちへのヒアリングを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

1 概要

(1) 子どもセンター職員等

【日 程】2023年8月22日（火）～9月10日（日）

【対象者】子どもセンター職員、中央学童保育クラブ職員

【方 法】T e a m s を活用したヒアリング

(2) 小・中学校の教員

【日 程】2023年9月22日（金）

【時 間】15分程度

【参加者】11名

【方 法】人権教育推進委員会にて意見聴取



2 ヒアリング対象の広報物

リーフレット【小学生向け】【中高生向け】【大人向け】、副読本、ガイドブック※

※子どもセンター職員等のみ

3 現場からの主な意見

(1) リーフレット【小学生向け】

- 表紙の文章量が多いのとフォントが一定なので、伝えたいことが入ってきにくいように感じる。（中高生向けも同様）
- 4コマ漫画が見にくい。BとAが和解すると良いと思う。
- 「子どもの声を聞く活動の例」のMSPは、高校生が対象となっているので、小学生対象の例としては向かないかなと思う。
- 4ページ目は、せっかくなれば、子どもセンターや子どもクラブ、冒険遊び場、まちともスタッフなども入れてもらえた方が、市やお店会社などよりは子どもに身近ではないかなと思う。

(2) リーフレット【中高生向け】

- 「子どもの最善の利益」という言葉が急に出てきて、その後それについて言及されるものがないので「???'となった。子どもの最善の利益と条例の関係が書かれている方がわかりやすいと思う。
- 中高生向けと書かれると、高校に行っていない対象年齢の人もいるので、「中学～18歳未満向け」などの方がいいかなと思う。
- 「子どもの権利条約」について説明が入った方がわかりやすいかと思う。

(3) リーフレット【大人向け】

- 「子どもの権利」を守るための大人の責務の「大人」を強調したい。
- 小学生用・中高生用も含めて、これぐらい見やすいと良いなと思った。

(4) 副読本

- 対高校生世代などだと子どもと言われないこともあるので、「子ども」が指す対象は明記していた方が良いかなと思う。
- ワークシートをやったことで、「子どもの権利とはこういうこと」と考えられると良いと思うし、授業としてだとわかりやすくて良いと思う。
- ワークシート「大人にしてほしいこと」について、その中で書かれたことがわがままなのかそうでないのかは、子どもたちに考えさせる場面があると良いと思う。
- 書いて終わるようなものではなく、「今後調べてみたいこと（知りたいことは何かな？調べてみよう）」と自立解決の一言があると良いと思う。
- 二次元バーコードをたくさん付けられるのならば、「子どもの権利条約」などを調べられるようにすると良いかもしれない。

(5) その他

- 市全体として中学生向けの印刷物にルビをふる方針だとしたら、合わせた方が良いのかなと思った。
- イラストがカワセミである理由（町田市の鳥だから）という説明があると良いかもしれないと思った。